

537,167
01 JUN 2005(19) 世界知的所有権機関
国際事務局(43) 国際公開日
2004 年 9 月 16 日 (16.09.2004)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2004/079177 A1

(51) 国際特許分類: F02F 1/00, 3/00, 5/00, F16J 1/00, 9/00

(21) 国際出願番号: PCT/JP2004/002536

(22) 国際出願日: 2004 年 3 月 2 日 (02.03.2004)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願2003-055218 2003 年 3 月 3 日 (03.03.2003) JP
特願2003-283248 2003 年 7 月 30 日 (30.07.2003) JP(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 坂東
機工株式会社 (BANDO KIKO CO., LTD.) [JP/JP];
〒7700871 徳島県徳島市金沢 2 丁目 4 番 60 号
Tokushima (JP).

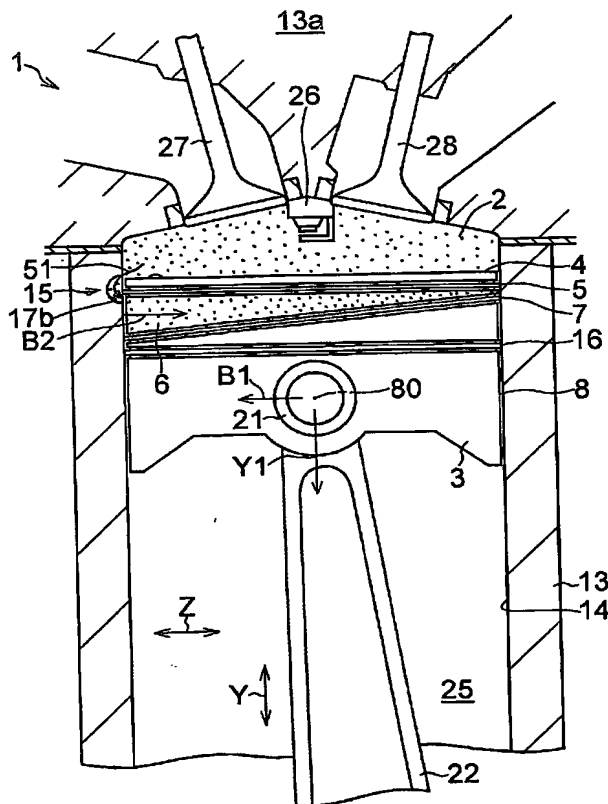
(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 坂東 茂 (BANDO,
Shigeru) [JP/JP]; 〒7700862 徳島県徳島市城東町 1 丁
目 2 番 3 8 号 Tokushima (JP).(74) 代理人: 高田 武志 (TAKADA, Takeshi); 〒1070062 東
京都港区南青山 5 丁目 1 2 番 6 号 英ビル 3 階 Tokyo
(JP).(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が
可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR,
BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM,
DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU,
ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS,
LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA,
NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE,
SG, SK, SL, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US,
UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

[続葉有]

(54) Title: RECIPROCATING ENGINE

(54) 発明の名称: 往復動エンジン



(57) Abstract: A reciprocating engine (1) has a piston ring (5), a piston ring (7), and a gas passage (15). The piston ring (7) forms an annular gas chamber (6) between itself and the piston ring (5) and is adjacent to the piston ring (5) such that a pressure receiving area at a side surface (8) of a piston (3) in the annular gas chamber (6) is larger at a thrust side (10) than at a non-thrust side (9). The gas passage (15) connects the annular gas chamber (6) to a combustion chamber (2).

(57) 要約: 往復動エンジン (1) は、ピストンリング (5) と、ピストンリング (5) との間で環状ガス室 (6) を規定していると共に環状ガス室 (6) でのピストン (3) の側面 (8) の受圧面積がピストン (3) の反スラスト側 (9) よりもスラスト側 (10) で大きくなるように、ピストンリング (5) に隣接しているピストンリング (7) と、環状ガス室 (6) を燃焼室 (2) に連通させるガス通路 (15) とを具備している。

WO 2004/079177 A1



(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

明細書

往復動エンジン

技術分野

本発明は、自動車等に用いる往復動エンジンに関する。

背景技術

この種の往復動エンジンとしては、爆発行程（燃焼行程）で、コンロッドが傾くことにより増大するピストン側面とシリンダの内面との摺動摩擦抵抗を低減するために第一のピストンリング（トップリング）に隣接する第二のピストンリング（セカンドリング）を第一のピストンリングに対して傾斜させると共に、燃焼室と第一及び第二のピストンリング間の環状ガス室とを一つのガス通路を介して連通するようになっている往復動エンジンが特開平5-180069号公報において提案されており、斯かる往復動エンジンは、環状ガス室のガス圧に基づいて生じるスラスト側におけるピストン支持（ガス圧支持）を、第二のピストンリングを傾斜させることで増大させ、ピストン側圧によるシリンダの内面とピストンリングの側面及びピストン側面との摺動摩擦抵抗を低減させるようになっている。

また、この種の他の往復動エンジンとしては、ピストン

の往復動でのシリンダの内面とピストン側面との間の摺動摩擦抵抗を低減するため、第一のピストンリング（トップリング）に隣接する第二のピストンリング（セカンドリング）を第一のピストンリングに対して傾斜させた往復動エンジンが特開平５－５４５９号公報において提案されており、斯かる往復動エンジンは、燃焼ガスに基づいて生じるスラスト側における側圧を、第二のピストンリングを傾斜させることで増大させ、燃焼室内の燃焼ガスのピストンに対するガス圧等に基づいて増大し得るスラスト側におけるシリンダの内面とピストンリングの側面及びピストン側面との摺動摩擦抵抗を低減させるようになっている。

ところで、斯かる往復動エンジンでは、ピストン側圧に抗するガス圧を生じさせてピストンをガス圧支持すべく第二のピストンリングを傾斜させると、第一及び第二のピストンリングにより規定される環状ガス室のスラスト側における容積が反スラスト側の容積に比べて大きくなるために、燃焼室内の燃焼ガスを一つのガス通路を介して環状ガス室に必要量を速やかに導入し得ず、従って、所望の支持力を生じさせてピストンリング及びピストン側面とシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることが困難である。第二のピストンリングが大きく傾斜されている場合や往復動エンジンの高速回転により一往復動当たりの燃焼室と環状ガス室との連通時間が短くなる場合には、燃焼室内の燃焼

ガスを環状ガス室に必要量を速やかに導入することは更に困難となり得る。

また、斯かる他の往復動エンジンでは、スラスト側で大きな側圧を生じさせるべく第二のピストンリングを大きく傾斜させると、傾斜させた第二のピストンリングがオイルリングに干渉してしまう虞があり、従って、所望の側圧を生じさせてピストンリング及びピストン側面とシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることが困難である。

本発明は、前記諸点に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、爆発行程において、ピストン降下始期に、燃焼室内のガスを環状ガス室に必要量を必要な力で速やかに導入・作用させることができ、所望のガス圧支持力を生じさせてピストンリング及びピストン側面とシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることのできる往復動エンジンを提供することにある。

本発明の他の目的とするところは、ピストンリングのオイルリングへの干渉をなくすことができ、所望の側圧を生じさせてピストンリング及びピストン側面とシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることのできる往復動エンジンを提供することにある。

発明の開示

本発明の第一の態様の往復動エンジンは、燃焼室を規定

しているピストンのトップ面に隣接している第一のピストンリングと、第一のピストンリングとの間で環状ガス室を規定していると共にこの環状ガス室でのピストンの側面の受圧面積が反スラスト側よりもスラスト側で大きくなるように、第一のピストンリングに隣接している第二のピストンリングと、シリンダの内面の円周方向に関して並んでシリンダの内面に配されていると共にスラスト側で環状ガス室を燃焼室に連通させる複数のガス通路とを具備している。

第一の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、例えば、爆発行程において、ピストン降下始期に燃焼室内の燃焼ガスをシリンダの内面の円周方向に関して並んでシリンダの内面に配されている複数のガス通路を介して環状ガス室に必要量を速やかに導入、作用させることができ、このようにして得られた環状ガス室内のガス圧に基づいて所望の支持力を生じさせてピストンをシリンダの内面からガス圧支持させて、ピストンリング及びピストン側面とシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることができる。

本発明の第二の態様の往復動エンジンでは、第一の態様の往復動エンジンにおいて、複数のガス通路は、シリンダの内面であってピストンが上死点又は上死点からの降下始期に環状ガス室を燃焼室に連通させる位置に配されている凹所を夫々具備している。

第二の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、例えば、爆発行程において、上死点からのピストン降下始期に、燃焼ガスを複数の凹所を介して環状ガス室に勢いよく広範囲に平均して導入作用させることができ、従って、環状ガス室内のガス圧を高めることができ、このガス圧を保持したままピストンを降下（往動）させることができ、特に爆発行程において、ピストンをピストン側圧に抗して好適にガス圧支持することができる。

本発明の第三の態様の往復動エンジンでは、第二の態様の往復動エンジンにおいて、複数の凹所は、環状ガス室のみを燃焼室に夫々連通させるようになっている。

本発明の第四の態様の往復動エンジンでは、第二又は第三の態様の往復動エンジンにおいて、複数のガス通路は、シリンダの内面であってピストンの上死点からの降下始期に環状ガス室を燃焼室に連通させる位置に配されている。

本発明の第五の態様の往復動エンジンでは、第二から第四のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所は、シリンダの内面であってピストンが上死点に位置する際に環状ガス室を燃焼室に連通させる位置に配されている。

本発明の第六の態様の往復動エンジンでは、第二から第五のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所は、往復動方向に関して他の凹所よりもシリ

ンダヘッドから離れて配されている。

第四から第六のいずれかの態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、燃焼室から環状ガス室に燃焼ガスを長時間にわたって十分に導入し得る。

本発明の第七の態様の往復動エンジンでは、第二から第六のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、ピストンの反スラスト側の部位から最も離反している少なくとも一つの凹所は、往復動方向に関して他の凹所よりもシリンダヘッドから離れて配されている。

本発明の第八の態様の往復動エンジンでは、第二から第七のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面の中心部は、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向並びに往復動方向に直交する方向に関してピストンの中心部に対向して配されている。

第七又は第八の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、環状ガス室の反スラスト側の部位よりも容積の大きい環状ガス室のスラスト側の部位に燃焼ガスを広範に導入、作用させることができ、従って、環状ガス室内のガス圧をより速やかに高めることができる。

本発明の第九の態様の往復動エンジンでは、第六又は第七の態様の往復動エンジンにおいて、シリンダヘッドから離れて配されている凹所のシリンダの内面に接続している

接続部であってシリンダヘッド側に位置する部位は、他の凹所のシリンダの内面に接続している接続部であってシリンダヘッド側に位置する部位に往復動方向で対向する部位よりもシリンダヘッド側に配されている。

本発明の第十の態様の往復動エンジンでは、第二から第九のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、複数の凹所の夫々に規定される空間の開口面の一部は、夫々互いに円周方向に伸びる線上に位置している。

第九又は第十の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、複数の凹所により燃焼室から環状ガス室に燃焼ガスを長時間平均して導入、作用させることができる。

本発明の第十一の態様の往復動エンジンは、第二から第十のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向に関して互いに対向する一对の凹所を具備しており、シリンダヘッドから一方の凹所までの往復動方向における距離とシリンダヘッドから他方の凹所までの往復動方向における距離とは、互いに等しい。

第十一の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、一对の凹所による燃焼室と環状ガス室との連通を同時的に開始又は終了させ得て、環状ガス室に圧縮ガスや燃焼ガスをより速やかに導入することができ

る。

本発明の第十二の態様の往復動エンジンでは、第二から第十一のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、複数の凹所は、部分凹球面状面を夫々具備している。

第十二の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、燃焼ガスの流入に抵抗がなく平均した良好な導入作用を得ることができる。

本発明の第十三の態様の往復動エンジンでは、第二から第十二のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所のシリンダの内面に接続する接続部に対する接線と往復動方向に伸びる線との交差角は、鈍角である。

本発明の第十四の態様の往復動エンジンでは、第二から第十三のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所のシリンダの内面に接続する接続部であって往復動方向で互いに対向する両部位に対する接線は、当該両部位よりもピストンから離反した位置で互いに交わる。

第十三又は第十四の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、広範囲から平均して燃焼ガスの導入、作用が行われる。

本発明の第十五の態様の往復動エンジンでは、第二から第十二のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少な

くとも一つの凹所のシリンダの内面に接続する接続部に対する接線と往復動方向に伸びる線とは、互いに直交する。

本発明の第十六の態様の往復動エンジンでは、第二から第十五のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所は、円周方向で当該凹所に隣接する凹所と異なる深さを有している。

本発明の第十七の態様の往復動エンジンでは、第二から第十六のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所は、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向並びに往復動方向に直交する方向に関して当該凹所に対して反スラスト側に位置する他の凹所よりも深い。

本発明の第十八の態様の往復動エンジンでは、第二から第十七のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所は、円周方向で当該凹所に隣接する凹所と等しい深さを有している。

第十六から第十八のいずれかの態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、各凹所による燃焼室と環状ガス室との連通状態を適宜調整し得る。ここで、複数の凹所は、その曲率と深さとの関連において夫々設計されてシリンダの内面に配設されることにより各凹所による燃焼室と環状ガス室との連通状態をより好ましく調整し得る。

本発明の第十九の態様の往復動エンジンは、第二から第十八のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向で互いに対向する一对の凹所を具備しており、一方の凹所に規定される空間の開口面の中心部及びピストンの中心部を結ぶ線並びに軸方向に伸びる線の交差角と他方の凹所に規定される空間の開口面の中心部及びピストンの中心部を結ぶ線並びに軸方向に伸びる線の交差角とは、互いに等しい。

本発明の第二十の態様の往復動エンジンでは、第十九の態様の往復動エンジンにおいて、一对の凹所は、夫々互いに同形状である。

第十九又は第二十の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、連結軸の軸方向に関する環状ガス室の一方側及び他方側に均等に燃焼ガスを導入作用させ得る。

本発明の第二十一の態様の往復動エンジンでは、第二から第二十のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、シリンダの内面に接続する複数の凹所の夫々の接続部であって往復動方向で互いに対向する両部位の間隔は、第一のピストンリングの厚みよりも大きい。

本発明の第二十二の態様の往復動エンジンでは、第二から第二十一のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、シリンダの内面に接続する複数の凹所の夫々の接続部であ

って往復動方向で互いに対向する両部位間の距離は、環状ガス室を規定する第一のピストンリングの規定面のスラスト側の部位から環状ガス室を規定する第二のピストンリングの規定面のスラスト側の部位までの往復動方向における距離よりも短い。

本発明の第二十三の態様の往復動エンジンでは、第二から第二十二のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面は、他の凹所に規定される空間の開口面と異なる径を有している。

本発明の第二十四の態様の往復動エンジンでは、第二から第二十三のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面は、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向及び往復動方向に関して当該凹所に対して反スラスト側に位置する凹所に規定される空間の開口面よりも長い径を有している。

本発明の第二十五の態様の往復動エンジンは、第二から第二十四のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向で互いに対向する一对の凹所を具備しており、一对の凹所の夫々に規定される空間の開口面の径と円周方向で当該一对の凹所に隣接する他の凹所に規定される空間の開口面の径とは、夫々互いに異なる。

本発明の第二十六の態様の往復動エンジンでは、第二から第二十五のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面は、他の凹所に規定される空間の開口面と等しい径を有している。

第二十三から第二十六のいずれかの態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、各凹所による燃焼室と環状ガス室との連通状態及び連通の開始若しくは終了の順序を適宜調整し得る。

本発明の第二十七の態様の往復動エンジンでは、第一から第二十六のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、燃焼室を規定する第一のピストンリングの規定面は、往復動方向に直交する面と平行となるように配されている。

本発明の第二十八の態様の往復動エンジンでは、第二から第二十七のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面の径は、当該凹所の深さよりも大きい。

本発明の第二十九の態様の往復動エンジンでは、第一から第二十八のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、第二のピストンリングは、往復動方向に対して傾斜して配されている。

本発明の第三十の態様の往復動エンジンは、第一から第二十九のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、第二のピストンリングを間にして第一のピストンリングに対向

してピストンに配されているオイルリングを具備しており、オイルリングのスラスト側の部位は、往復動方向に関してピストンとコンロッドとを連結するピストンピンに対向するオイルリングの部位よりも第一のピストンリングから離れている。

第三十の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、オイルリングをピストン及びコンロッドを連結している連結軸に干渉させないで第一のピストンリングから離れさせて配置することができて、第二のピストンリングを、オイルリングに干渉させることなく、特にスラスト側で第一のピストンリングから離れさせて配置することができる。ここで、当該往復動エンジンでは、オイルリングと共に第二のピストンリングを往復動方向に対して大きく傾斜させた場合でも、ピストンをガスフロートさせるのに十分な量の燃焼ガスを燃焼室から上述のような複数のガス通路を介して環状ガス室に満遍なく速やかに導入作用させることができる。

本発明の第三十一の態様の往復動エンジンでは、第三十の態様の往復動エンジンにおいて、オイルリングのスラスト側の部位は、当該オイルリングの反スラスト側の部位よりも第一のピストンリングから離れている。

本発明の第三十二の態様の往復動エンジンでは、第二十九の態様の往復動エンジンにおいて、第二のピストンリン

グを間にして第一のピストンリングに対向してピストンに配されているオイルリングを具備しており、オイルリングは、往復動方向に対して傾斜して配されている。

本発明の第三十三の態様の往復動エンジンでは、第三十二の態様の往復動エンジンにおいて、オイルリング及び第二のピストンリングは、夫々互いに等しい角度をもって往復動方向に対して傾斜して配されている。

本発明の第三十四の態様の往復動エンジンでは、第一から第三十三のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンは、反スラスト側に偏心している。

本発明の第三十五の態様の往復動エンジンは、燃焼室を規定しているピストンのトップ面に隣接している第一のピストンリングと、第一のピストンリングとの間で環状ガス室を規定していると共にこの環状ガス室でのピストンの側面の受圧面積がピストンの一方の揺動側面部位よりもこの揺動側面部位に対向する他方の揺動側面部位の方で大きくなるように、第一のピストンリングに隣接している第二のピストンリングと、一方及び他方の揺動側面部位間の略中間よりも他方の揺動側面部位の方で第一のピストンリングから離れているオイルリングと、ピストン及びシリンダの内面のうちの少なくとも一方に形成されており、環状ガス室を燃焼室に連通させるガス通路とを具備している。

第三十五の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成を具備しているために、オイルリングをピストン及びコンロッドを連結している連結軸に干渉させないで第一のピストンリングから離れさせて配置することができて、第二のピストンリングを、オイルリングに干渉させることなく、特に他方の揺動側面部位側で第一のピストンリングから離れさせて配置することができ、而して、所望の側圧を生じさせてピストンをシリンダの内面から浮上（ガスフロー）させて、ピストンリングとシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることができる。

本発明の第三十六の態様の往復動エンジンでは、第三十五の態様の往復動エンジンにおいて、第二のピストンリングは、ピストンの往復動方向に対して傾斜して配されている。

本発明の第三十七の態様の往復動エンジンでは、第三十五又は第三十六の態様の往復動エンジンにおいて、オイルリングは、ピストンの往復動方向に対して傾斜して配されている。

本発明の第三十八の態様の往復動エンジンでは、第三十五から第三十七のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、一方の揺動側面部位は、反スラスト側に位置しており、他方の揺動側面部位は、スラスト側に位置している。

第三十八の態様の往復動エンジンによれば、上述の構成

を具備しているために、燃焼行程で大きく生じ得るスラスト側におけるピストンリングとシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることができ、ピストンをスムーズに往復動させ得る。

本発明の第三十九の態様の往復動エンジンでは、第三十五から第三十八のいずれかの態様の往復動エンジンにおいて、少なくとも一のガス通路は、シリンダの内面であってピストンが上死点近傍に位置する際に環状ガス室を燃焼室に連通させる位置に配された凹所からなる。

尚、上述のような態様の往復動エンジンは、4サイクルガソリンエンジン又はディーゼルエンジンであってもよく、いずれのエンジンでも本発明による効果を好適に発揮し得る。

本発明によれば、爆発行程において、ピストン降下始期に、燃焼室内のガスを環状ガス室に必要な量を必要な力で速やかに導入・作用させることができ、所望のガス圧支持力を生じさせてピストンリング及びピストン側面とシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることのできる往復動エンジンを提供し得る。

また、本発明によれば、ピストンリングのオイルリングへの干渉をなくすことができ、所望の側圧を生じさせてピストンリング及びピストン側面とシリンダとの摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることのできる往復動エンジンを提

供し得る。

次に、本発明の実施の形態の例を、図に示す好ましい例に基づいて更に詳細に説明する。尚、本発明はこれら例に何等限定されないのである。

図面の簡単な説明

図 1 は、本発明の実施の形態の例の縦断面説明図、

図 2 は、図 7 に示す例の I I - I I 線断面矢視説明図、

図 3 は、図 7 に示す例の I I I - I I I 線断面矢視説明図、

図 4 は、図 1 に示す例の主に凹所の縦断面拡大説明図、

図 5 は、図 1 に示す例の動作説明図、

図 6 は、図 1 に示す例の動作説明図、

図 7 は、図 1 に示す例の動作説明図、

図 8 の (a)、(b) 及び (c) は、図 1 に示す例の一部拡大動作説明図、

図 9 は、本発明の実施の形態の他の例の説明図、

図 1 0 は、本発明の実施の形態の他の例の説明図、

図 1 1 は、本発明の実施の形態の他の例の説明図、

図 1 2 は、本発明の実施の形態の他の例の縦断面説明図、

図 1 3 は、本発明の実施の形態の更に他の例の縦断面説明図、そして、

図 1 4 は、図 1 3 に示す更に他の例の一部の平面説明図

である。

発明を実施するための最良の形態

図 1 から図 8 において、本例の往復動エンジンとしての 4 サイクルガソリンエンジン 1 は、燃焼室 2 を規定しているピストン 3 のトップ面（頭部端面）4 に隣接しているピストンリング（トップリング）5 と、ピストンリング 5 との間で環状ガス室 6 を規定していると共に環状ガス室 6 でのピストン 3 の側面 8 の受圧面積がピストン 3 の反スラスト側 9 よりもスラスト側 10 で大きくなるように、ピストンリング 5 に隣接しているピストンリング 7 と、シリンダ 13 の内面 14 の円周方向 X に関して並んでシリンダ 13 の内面 14 に配されていると共にスラスト側 10 で環状ガス室 6 を燃焼室 2 に連通させる複数のガス通路 15 と、ピストン 3 の往復動方向 Y でピストンリング 7 を間にしてピストンリング 5 に対向して配されているオイルリング 16 とを具備している。

ピストン 3 のトップ面 4 に接続している側面 8 には、ピストンリング 5 及び 7 並びにオイルリング 16 の夫々に対応して配置されたリング溝が形成されており、各リング溝にはピストンリング 5 及び 7 並びにオイルリング 16 が夫々嵌着されている。トップ面 4 は、往復動方向 Y に直交する面と平行となるようにピストン 3 に形成されている。側

面 8 は、往復動方向 Y と平行となるようにピストン 3 に形成されている。

ピストン 3 にピストンピン 2 1 を介して回転自在に連結されている小端部 2 2 a 及びクランクシャフトが回転自在に連結されている大端部を有しているコンロッド 2 2 は、本例では、図 1 及び図 7 に示すようにピストン 3 が方向 Y 1 に向かって往動される際に大端部が小端部 2 2 a よりも反スラスト側 9 に配されるようになっている。

シリンダ 1 3 は、内面 1 4 によって規定されたシリンダボア（空間）2 5 を有しており、シリンダボア 2 5 には、ピストン 3 が往復動方向 Y で往復動自在となるように配されている。シリンダヘッド 1 3 a には、点火プラグ 2 6、吸気弁 2 7 及び排気弁 2 8 が設けられている。内面 1 4 は、往復動方向 Y と平行となるようにシリンダ 1 3 に形成されている。

ピストンリング 5 は、通常は、燃焼室 2 を規定しているピストン 3 のトップ面 4 と平行となるように、ピストン 3 のリング溝に嵌着されている。ピストンリング 5 は、燃焼室 2 を規定する環状規定面 5 a と、環状ガス室 6 を規定する環状規定面 5 b と、環状規定面 5 a 及び 5 b に接続していると共にシリンダ 1 3 の内面 1 4 に摺動する摺動側面 5 c とを具備している。環状規定面 5 a 及び 5 b は、往復動方向 Y に直交する面と平行となるように配されている。摺

動側面 5 c は、往復動方向 Y と平行となるようにピストンリング 5 に形成されている。ピストンリング 5 は、本例では、燃焼室 2 と環状ガス室 6 とを画成することができるように肉薄に形成されている。

ピストンリング 7 は、反スラスト側 9 からスラスト側 10 に向かうに従ってピストンリング 5 から漸次離れるように、往復動方向 Y に対して傾斜してピストン 3 のリング溝に嵌着されている。ピストンリング 7 は、ピストンリング 5 側に配されていると共に環状ガス室 6 を規定している環状規定面 7 a と、オイルリング 16 側に配されていると共に環状規定面 7 a に対向する環状面 7 b と、シリンダ 13 の内面 14 に摺動する摺動側面 7 c とを具備している。環状規定面 7 a 及び環状面 7 b は、その反スラスト側 9 の部位よりもスラスト側 10 の部位で環状規定面 5 b から離反するように往復動方向 Y に対して傾斜している。環状規定面 5 b のスラスト側 10 の部位から環状規定面 7 a のスラスト側 10 の部位までの往復動方向 Y における距離は、環状規定面 5 b の反スラスト側 9 の部位から環状規定面 7 a の反スラスト側 9 の部位までの往復動方向 Y における距離よりも長い。

環状ガス室 6 は、ピストン 3 の側面 8、シリンダ 13 の内面 14 並びにピストンリング 5 及び 7 によって規定されてなる。ここで、環状ガス室 6 の容積は、ピストンリング

7が上述のように傾斜して配されているために、スラスト側10で大きくなっている一方、反スラスト側9で小さくなっている。

オイルリング16は、本例では、ピストンリング（トップリング）5と平行となるようにピストン3のリング溝に装着されている。オイルリング16は、環状面7bに対向するピストンリング7側の環状面16aと、往復動方向Yで環状面16aに対向するピストンピン21側の環状面16bと、環状面16a及び16bに接続していると共に内面14に摺動する摺動側面16cとを具備している。環状面16a及び16bは、本例では、往復動方向Yに直交する面と平行となるように配されている。摺動側面16cは、往復動方向Yと平行となるようにオイルリング16に形成されている。

ガス通路15は、本例では、シリンダ13の内面14に三つ設けられている。三つのガス通路15の夫々は、シリンダ13の内面14であってピストン3が上死点近傍に位置する際に環状ガス室6を燃焼室2に連通させる位置に配されている凹所17a、17b及び17cを具備している。凹所17a、17b及び17cは、本例では、爆発行程

（燃焼行程）において、往復動方向Yに関してピストン3がクランク角度で略6度から略37度に相当する位置に存在する場合に環状ガス室6のみを燃焼室2に夫々同時的に

連通させるように、側面 8 に対面する内面 1 4 に夫々形成されている。

凹所 1 7 a 及び 1 7 c は、円周方向 X で凹所 1 7 b を間にしていると共に、ピストンピン 2 1 の軸方向 A で互いに対向している。凹所 1 7 a 及び 1 7 b の円周方向 X における間隔と凹所 1 7 b 及び 1 7 c の円周方向 X における間隔とは、互いに略々等しい。凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c は、本例では、夫々互いに略々同形状である。シリンダヘッド 1 3 a から凹所 1 7 a までの往復動方向 Y における距離、シリンダヘッド 1 3 a から凹所 1 7 b までの往復動方向 Y における距離及びシリンダヘッド 1 3 a から凹所 1 7 c までの往復動方向 Y における距離は、本例では、夫々互いに略々等しい。

凹所 1 7 b に規定される空間 3 0 b の円形の開口面 3 1 b の中心部 C 2 は、本例では、図 3 に示すように、軸方向 A 及び往復動方向 Y に直交する方向 Z に関してピストン 3 の中心部 O に対向して配されている。凹所 1 7 b は、凹所 1 7 a 及び 1 7 c よりも反スラスト側 9 から離れている。

凹所 1 7 a に規定される空間 3 0 a の開口面 3 1 a の中心部 C 1 及びピストン 3 の中心部 O を結ぶ線 3 2 並びに軸方向 A に伸びる線 8 0 の交差角 3 5 と、凹所 1 7 c に規定される空間 3 0 c の開口面 3 1 c の中心部 C 3 及びピストン 3 の中心部 O を結ぶ線 3 6 並びに線 8 0 の交差角 3 7 と

は、互いに略々等しい。

凹所 17 a は、本例では、シリンダ 13 の内面 14 に接続している接続部 40 a を有する部分凹球面状面 41 a を具備している。部分凹球面状面 41 a は、円形の開口面 31 a を有する空間 30 a を規定している。凹所 17 b は、本例では、シリンダ 13 の内面 14 に接続している接続部 40 b を有する部分凹球面状面 41 b を具備している。部分凹球面状面 41 b は、円形の開口面 31 b を有する空間 30 b を規定している。凹所 17 c は、本例では、シリンダ 13 の内面 14 に接続している接続部 40 c を有する部分凹球面状面 41 c を具備している。部分凹球面状面 41 c は、円形の開口面 31 c を有する空間 30 c を規定している。尚、凹所 17 a、17 b 及び 17 c は、部分凹球面状面 41 a、41 b 及び 41 c に代えて、角を有した面を夫々具備していてもよい。また、接続部 40 a、40 b 及び 40 c の夫々には、糸面取りが施されていてもよい。

部分凹球面状面 41 a、41 b 及び 41 c は、本例では、夫々互いに等しい曲率及び往復動方向 Y に直交する方向における深さを有している。円形の開口面 31 a、31 b 及び 31 c は、本例では、夫々互いに等しい径を有している。

凹所 17 b は、本例では、図 4 に示すように、接続部 40 b に対する接線 42 と往復動方向 Y に伸びる線 43 との交差角 44 が鈍角となるように、内面 14 に設けられてい

る。往復動方向 Y で互いに対向する接続部 40 b の部位 45 及び 46 に対する接線 42 は、本例では、往復動方向 Y に直交する方向で当該部位 45 及び 46 よりもピストン 3 から離反した位置に存する交点 P で互いに交わっている。往復動方向 Y における部位 45 及び 46 間の距離 L1 は、環状規定面 5 a から環状規定面 5 b までの往復動方向 Y における距離 L2 よりも長く、換言すれば、当該部位 45 及び 46 の間隔は、ピストンリング 5 の厚みよりも大きい。距離 L1 は、図 8 の (b) に示すように、環状規定面 5 b のスラスト側 10 の部位から環状規定面 7 a のスラスト側 10 の部位までの往復動方向 Y における距離 L3 よりも短い。凹所 17 b に規定される空間 30 b の開口面 31 b の径は、当該凹所 17 b の往復動方向 Y に直交する方向における深さよりも大きい。尚、本例では、接続部 40 a 及び 40 c についても接続部 40 b と同様に構成されているので、これらについての詳細な説明を省略する。

本例の往復動エンジン 1 の動作について説明すると、圧縮行程において、図 5 及び図 8 の (a) に示すように、ピストン 3 が上死点近傍に位置すると共に上死点に到達する前にピストンリング 5 の環状規定面 5 b が凹所 17 b のシリンダヘッド 13 a 側の部位 45 に対向するピストンピン 21 側の部位 46 よりもシリンダヘッド 13 a 側に位置した際に、燃焼室 2 が環状ガス室 6 に凹所 17 b を介して連

通し、燃焼室 2 から環状ガス室 6 に低圧の圧縮ガスが入り始める。ここで、燃焼室 2 は、ピストンリング 5 がトップ面 4 と平行となるように配されているために、空間 30b を介する環状ガス室 6 の連通と同時的に円周方向 X で凹所 17b に対して並んで配されている凹所 17a 及び 17c に規定される空間 30a 及び 30c をも介して環状ガス室 6 に連通される結果、スラスト側 10 の複数の部位から低圧の圧縮ガスが環状ガス室 6 内に入る。

次に、図 1、図 6 及び図 8 の (c) に示す爆発行程（燃焼行程）において、ピストン 3 の降下始期、即ち、ピストン 3 が上死点近傍を降下する時に、燃焼室 2 内の燃焼ガス 51 を凹所 17a、17b 及び 17c を介して環状ガス室 6 に導入し、導入した燃焼ガス 51 のガス圧により環状ガス室 6 内のガス圧を高め、当該ガス圧に基づいてガス圧支持されるピストン 3 が下死点に向かって降下する。ここで、環状ガス室 6 内で保持されているガス圧によってガス圧支持されながら往動するピストン 3 から、往復動方向 Y に対して傾斜しているコンロッド 22 に方向 Y1 に向かう往動力が与えられることによってピストン 3 にスラスト側 10 に向かう側圧力 B1 が与えられるが、当該側圧力 B1 に抗して、環状ガス室 6 内に十分に供給されたガス圧によりピストン 3 に反スラスト側 9 に向かう支持力 B2 を与えて、当該ピストン 3 をガス圧支持させる。尚、ピストン 3 が図

6 に示すように上死点に位置する場合には、本例では、特に図 8 の (b) に示すように、凹所 17 a、17 b 及び 17 c を介する燃焼室 2 と環状ガス室 6 との連通は止めるが、連通させてもよい。

以上のように構成された往復動エンジン 1 では、燃焼時には凹所 17 a、17 b 及び 17 c を介して燃焼室 2 と環状ガス室 6 とが連通される位置にピストン 3 がもたらされているため、燃焼行程で燃焼室 2 で燃焼して発生したガス圧は、凹所 17 a、17 b 及び 17 c を介して環状ガス室 6 に満遍なく速やかに導入される。この導入されたガス圧に基づき環状ガス室 6 の偏倚した圧力を受けてピストン 3 は、その往復動では内面 14、特に内面 14 のスラスト側 10 の部位でガス圧支持される。ガス圧により支持されたピストン 3 は、極めて低い摺動摩擦抵抗をもって往復動する。また、斯かる往復動において、ピストン 3 はピストンピン 21 を中心として軸方向 A に直交する面内で揺動（首振り）されようとするが、当該揺動は、上述の環状ガス室 6 のガス圧によって阻止される。ピストン 3 は、極めて低い摺動摩擦抵抗をもって往復動し得ることとなり、往復動エンジン 1 の燃費の改善等を図り得る。

本例の往復動エンジン 1 によれば、燃焼室 2 を規定しているピストン 3 のトップ面 4 に隣接しているピストンリング 5 と、ピストンリング 5 との間で環状ガス室 6 を規定し

ていると共に環状ガス室 6 でのピストン 3 の側面 8 の受圧面積が反スラスト側 9 よりもスラスト側 10 で大きくなるように、ピストンリング 5 に隣接しているピストンリング 7 と、シリンダ 13 の内面 14 の円周方向 X に関して並んで内面 14 に配されていると共にスラスト側 10 で環状ガス室 6 を燃焼室 2 に連通させる複数のガス通路 15 とを具備しているために、燃焼室 2 内の燃焼ガス 51 を複数のガス通路 15 を介して環状ガス室 6 に満遍なく速やかに導入作用させることができ、このようにして導入作用させた環状ガス室 6 内の燃焼ガス 51 に基づいて所望の支持力を生じさせてピストン 3 を内面 14 からガス圧支持させて、ピストンリング 5 の摺動側面 5c 及びピストン 3 の側面 8 とシリンダ 13 の内面 14 との摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることができ、複数のガス通路 15 が、内面 14 であって上死点近傍でピストン 3 を降下させる際に環状ガス室 6 を燃焼室 2 に連通させる位置に配されている凹所 17a、17b 及び 17c を夫々具備しているために、上死点近傍で燃焼ガス 51 を凹所 17a、17b 及び 17c を介して環状ガス室 6 に勢いよく導入作用させることができ、更に、環状ガス室 6 内のガス圧を高めることができ、このガス圧を保持したままピストン 3 を降下（往動）させることができ、特に爆発行程において、ピストン 3 をピストン側圧に抗して好適にガス圧支持することができ、凹所 17b に

規定される空間 3 0 b の開口面 3 1 b の中心部 C 2 が方向 Z に関してピストン 3 の中心部 O に対向して配されているために、環状ガス室 6 の反スラスト側 9 の部位よりも容積の大きい環状ガス室 6 のスラスト側 1 0 の部位から先行して圧縮ガスを導入することができ、従って、環状ガス室 6 内に燃焼ガス 5 1 をより満遍なく速やかに導入作用させることができ、シリンダヘッド 1 3 a から凹所 1 7 a までの往復動方向 Y における距離とシリンダヘッド 1 3 a から凹所 1 7 c までの距離とが互いに等しいために、一对の凹所 1 7 a 及び 1 7 c による燃焼室 2 と環状ガス室 6 との連通を同時的に且つ広範囲に開始又は終了させ得て、環状ガス室 6 に燃焼ガス 5 1 をより速やかに且つ広範囲に導入作用させることができ、凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c が部分凹球面状面 4 1 a、4 1 b 及び 4 1 c を夫々具備しているために、燃焼ガス 5 1 の流入に抵抗がなく平均した良好な導入作用を得ることができ、凹所 1 7 b の内面 1 4 に接続する部分凹球面状面 4 1 b の接続部 4 0 b に対する接線 4 2 と往復動方向 Y に伸びる線 4 3 との交差角 4 4 が鈍角であり、また、接続部 4 0 b であって往復動方向 Y で互に対向する部位 4 5 及び 4 6 に対する接線 4 2 が往復動方向 Y に直交する方向で部位 4 5 及び 4 6 よりもピストン 3 から離反した位置で互いに交わっており、更に、凹所 1 7 a 及び 1 7 c についても凹所 1 7 b と同様に構成されている

ために、燃焼ガス 5 1 を広範囲に導入し得、凹所 1 7 b が、円周方向 X で当該凹所 1 7 b に隣接する凹所 1 7 a 及び 1 7 c と夫々互いに等しい曲率を有しており、また、凹所 1 7 b が、円周方向 X で当該凹所 1 7 b に隣接する凹所 1 7 a 及び 1 7 c と等しい深さを有しているために、凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c が曲率及び深さとの関連において夫々設計されて内面 1 4 に配設されることで各凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c により燃焼室 2 と環状ガス室 6 とを夫々同様に連通させ得、凹所 1 7 a に規定される空間 3 0 a の開口面 3 1 a の中心部 C 1 及びピストン 3 の中心部 O を結ぶ線 3 2 並びに軸方向 A に伸びる線 8 0 の交差角 3 5 と凹所 1 7 c に規定される空間 3 0 c の開口面 3 1 c の中心部 C 3 及びピストン 3 の中心部 O を結ぶ線 3 6 並びに線 8 0 の交差角 3 7 とが互いに等しく、更に、凹所 1 7 a 及び 1 7 c は、夫々互いに同形状であるために、軸方向 A に関する環状ガス室 6 の一方側及び他方側に均等に燃焼ガス 5 1 を導入し得、凹所 1 7 b に規定される空間 3 0 b の開口面 3 1 b は、他の凹所 1 7 a 及び 1 7 c に規定される空間 3 0 a 及び 3 0 c の開口面 3 1 a 及び 3 1 c と略々等しい径を有しているために、凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c により燃焼室 2 と環状ガス室 6 とを同様な状態で連通させ得ると共に当該連通を同時的に開始又は終了させ得、環状規定面 5 a が往復動方向 Y に直交する面と平行となるように配

されており、また、環状規定面 5 b が往復動方向 Y に直交する面と平行となるように配されているために、円周方向 X で互いに並んで配されている凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c による燃焼室 2 及び環状ガス室 6 の連通を同時的に開始又は終了し得る。

尚、本例の往復動エンジン 1 は、図 9 に示すように、例えば凹所 1 7 b に代えて、ピストン 3 の反スラスト側 9 の部位から最も離反していると共に往復動方向 Y に関して他の凹所 1 7 a 及び 1 7 c よりもシリンダヘッド 1 3 a から離れて配されている凹所 5 2 を具備していてもよく、斯かる凹所 5 2 により凹所 1 7 a 及び 1 7 c に先行して環状ガス室 6 の反スラスト側 9 の部位に対して容積の大きい環状ガス室 6 のスラスト側 1 0 の部位からガスを導入することができ、従って、環状ガス室 6 内に燃焼ガス 5 1 をより満遍なく速やかに導入することができる。尚、凹所 5 2 は、凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c の少なくとも一つに代えて又は凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c に加えて、シリンダ 1 3 の内面 1 4 に配されてもよく、斯かる凹所 5 2 の配設により凹所 1 7 a、1 7 b、1 7 c 及び 5 2 の夫々が燃焼室 2 と環状ガス室 6 とを連通させる順序を適宜調整し得る。ここで、図 9 に示すように、往復動方向 Y でシリンダヘッド 1 3 a から離れて配されている凹所 5 2 の内面 1 4 に接続している接続部 4 0 d であってシリンダヘッド 1 3 a 側

に位置する部位 4 5 は、接続部 4 0 a 及び 4 0 c であってシリンダヘッド 1 3 a 側に位置する部位 4 5 に往復動方向 Y で対向する部位 4 6 よりもシリンダヘッド 1 3 a 側に配されてもよく、凹所 1 7 a、1 7 c 及び 5 2 の夫々に規定される空間 3 0 a、3 0 c 及び 3 0 d の開口面 3 1 a、3 1 c 及び 3 1 d の一部は、夫々互いに円周方向 X に伸びる線 5 3 上に位置してもよく、また、例えば、凹所 1 7 a 及び 1 7 c の開口面 3 1 a 及び 3 1 c の中心部 C 1 及び C 3 は、接続部 4 0 d の部位 4 5 を通る円周方向 X に伸びる線 5 4 上に位置してもよく、このように凹所 1 7 a、1 7 c 及び 5 2 が配されている場合には、これらの凹所 1 7 a、1 7 c 及び 5 2 により燃焼室 2 から環状ガス室 6 に燃焼ガス 5 1 を断続させることなく連続的に導入することができる。

また、本例の往復動エンジン 1 は、三つのガス通路 1 5 に代えて、シリンダ 1 3 の内面 1 4 に配された二つのガス通路 1 5 を具備していてもよく、また、図 1 0 及び図 1 1 に示すように、三つ以上のガス通路（四つ又は五つのガス通路等）1 5 を具備していてもよく、このようにして、往復動エンジン 1 の種々の態様に応じて環状ガス室 6 に燃焼ガス 5 1 を満遍なく、広範囲に且つ速やかに導入することができるように、ガス通路 1 5 の個数を適宜設定することができる。ここで、例えば、図 1 0 に示すように、四つの

ガス通路 1 5 を具備している場合には、凹所 5 6 に規定される空間 3 0 e の開口面 3 1 e の中心部 C 4 及びピストン 3 の中心部 O を結ぶ線 6 0 並びに線 8 0 の交差角 6 4 と、軸方向 A で凹所 5 6 に対向する凹所 5 9 に規定される空間 3 0 h の開口面 3 1 h の中心部 C 7 及び中心部 O を結ぶ線 6 3 並びに線 8 0 の交差角 6 7 とが互いに等しい角度となっている一方、円周方向 X で凹所 5 6 に隣接している凹所 5 7 に規定される空間 3 0 f の開口面 3 1 f の中心部 C 5 及び中心部 O を結ぶ線 6 1 並びに線 8 0 の交差角 6 5 と、軸方向 A で凹所 5 7 に対向すると共に円周方向 X で凹所 5 9 に隣接している凹所 5 8 に規定される空間 3 0 g の開口面 3 1 g の中心部 C 6 及び中心部 O を結ぶ線 6 2 並びに線 8 0 の交差角 6 6 とが夫々互いに等しい角度となっているのが好ましく、斯かる場合には、軸方向 A に関する環状ガス室 6 の一方側及び他方側に均等に燃焼ガス 5 1 を導入、作用し得る。

更に、本例の往復動エンジン 1 は、図 1 1 に示すように、凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c に代えて、往復動方向 Y に直交する方向における深さが夫々互いに異なる凹所 5 6、5 7、5 8 及び 5 9 並びに方向 Z でピストン 3 の中心部 O に対向する凹所 7 0 を具備してもよく、好ましくは、最もスラスト側 1 0 に位置する凹所 7 0 は、方向 Z に関して当該凹所 7 0 に対して反スラスト側 9 に位置する凹所 5 6、

5 7、5 8 及び 5 9 よりも深くなるように構成され、凹所 5 7 及び 5 8 は、凹所 5 6 及び 5 9 よりも深くなるように構成される。また、夫々互いに曲率の異なる凹所 5 6、5 7、5 8、5 9 及び 7 0 を具備してもよく、好ましくは、最もスラスト側 1 0 に位置する凹所 7 0 は、方向 Z に関して当該凹所 7 0 に対して反スラスト側 9 に位置する凹所 5 6、5 7、5 8 及び 5 9 よりも小さい曲率を有しており、凹所 5 7 及び 5 8 は、凹所 5 6 及び 5 9 よりも小さい曲率を有している。更に、凹所 5 6、5 7、5 8、5 9 及び 7 0 に夫々規定される空間 3 0 e、3 0 f、3 0 g、3 0 h 及び 3 0 i の開口面 3 1 e、3 1 g、3 1 f、3 1 h 及び 3 1 i の半径又は直径は、夫々互いに異なってもよく、好ましくは、最もスラスト側 1 0 に位置する凹所 7 0 における開口面 3 1 i は、方向 Z に関して当該凹所 7 0 に対して反スラスト側 9 に位置する凹所 5 6、5 7、5 8 及び 5 9 における開口面 3 1 e、3 1 f、3 1 g 及び 3 1 h よりも長い半径又は直径を有しており、凹所 5 7 及び 5 8 における開口面 3 1 f 及び 3 1 g は凹所 5 6 及び 5 9 における開口面 3 1 e 及び 3 1 h よりも長い半径又は直径を有している。上記のような深さ、曲率及び径（半径、直径を含む）を夫々有する凹所 5 6、5 7、5 8、5 9 及び 7 0 を構成することにより、燃焼室 2 と環状ガス室 6 との連通状態及び連通の開始若しくは終了の順序を適宜調整し得、特

に上記の曲率と深さとの関連において夫々設計されてシリンダ 13 の内面 14 に配設されることにより各凹所 56、57、58、59 及び 70 による燃焼室 2 と環状ガス室 6 との連通状態をより好ましく調整し得る。

更にまた、本例の往復動エンジン 1 は、図 12 に示すように、オイルリング 16 に代えて、ピストンリング 7 を間にしてピストンリング 5 に対向してピストン 3 に配されていると共に、スラスト側 10 の部位 71 が往復動方向 Y に関してピストン 3 及びコンロッド 22 を連結するピストンピン 21 に対向する部位 72 及び反スラスト側 9 の部位 73 よりもピストンリング 5 から離れるように、往復動方向 Y に対して傾斜しているオイルリング 75 を具備していてもよく、斯かる場合には、ピストンリング 7 は、オイルリング 75 の傾斜角と等しい角度をもって往復動方向 Y に対して傾斜していてもよい。オイルリング 75 を具備する往復動エンジン 1 によれば、オイルリング 75 をピストンピン 21 に干渉させないでピストンリング 5 から離れさせて配置することができて、ピストンリング 7 を、オイルリング 75 に干渉させることなく、特にスラスト側 10 でピストンリング 5 から離れさせて配置することができる。ここで、当該往復動エンジン 1 では、オイルリング 75 と共にピストンリング 7 を往復動方向 Y に対して大きく傾斜させた場合でも、ピストン 3 をガス圧支持させるのに十分な量

の燃焼ガス 5 1 を燃焼室 2 から上述のような複数のガス通路 1 5 を介して環状ガス室 6 に満遍なく速やかに導入作用してガス圧を高める。

加えて、本例の往復動エンジン 1 は、ピストンピン 2 1 に代えて、反スラスト側 9 に偏心しているピストンピンを具備していてもよい。

尚、複数のガス通路 1 5 は、本例では、ピストン 3 が図 6 に示すように上死点に位置する場合に、燃焼室 2 と環状ガス室 6 との連通が一旦解除されるように上死点近傍に配された凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c を夫々具備しているが、凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c の少なくとも一つに代えて又はこれらに加えて、ピストン 3 が上死点に位置する場合においても、燃焼室 2 及び環状ガス室 6 を連通させるように配された凹所を具備していてもよい。また、複数のガス通路 1 5 は、凹所 1 7 a、1 7 b 及び 1 7 c の少なくとも一つに代えて又はこれらに加えて、シリンダ 1 3 の内面 1 4 に接続する接続部 4 0 a、4 0 b 及び 4 0 c の夫々に対する接線 4 2 と往復動方向 Y に伸びる線 4 3 とが直交するように、シリンダ 1 3 の内面 1 4 に設けられた凹所を夫々具備していてもよい。

図 1 3 及び図 1 4 において、本例の往復動エンジンとしての他の 4 サイクルガソリンエンジン 1 K は、燃焼室 2 を規定しているピストン 3 のトップ面 4 に隣接しているピス

トンリング（トップリング）５と、ピストンリング５との間で環状ガス室６を規定していると共に環状ガス室６でのピストン３の側面８の受圧面積がピストン３の反スラスト側に位置する揺動側面部位９Ｋよりも揺動側面部位９Ｋに対向するスラスト側に位置する揺動側面部位１０Ｋの方で大きくなるように、ピストンリング５に隣接しているピストンリング（セカンドリング）７と、揺動側面部位９Ｋ及び１０Ｋ間の略中間よりも揺動側面部位１０Ｋの方でピストンリング５から離れているオイルリング１６と、シリンダ１３の内面１４であってピストン３が上死点近傍に位置する際に環状ガス室６を燃焼室２に連通させる位置に配されたガス通路としての凹所１５Ｋとを具備している。

ピストン３の側面８には、ピストンリング５及び７並びにオイルリング１６の夫々に対応して配置されたリング溝が形成されており、各リング溝にはピストンリング５及び７並びにオイルリング１６が夫々嵌着されている。

コンロッド２２は、その小端部で連結軸（ピストンピン）２１を介してピストン３に回動自在に連結されている。コンロッド２２の大端部には、クランクシャフトが回動自在に連結されている。

シリンダ１３は、その内面によって規定されたシリンダボア（空間）２５を有しており、シリンダボア２５には、ピストン３が往復動方向Ｙで往復動自在となるように配さ

れている。シリンダ 1 3 には、点火プラグ 2 6、吸気弁及び排気弁 2 7 K が設けられている。

ピストンリング 5 は、燃焼室 2 を規定しているピストン 3 のトップ面（頭部端面）4 と実質的に平行となるように、ピストン 3 のリング溝に嵌着されている。

ピストンリング 7 は、揺動側面部位 9 K から揺動側面部位 1 0 K に向うに従ってピストン 3 から漸次離れるように、往復動方向 Y 及びピストンリング 5 に対して傾斜してピストン 3 のリング溝に嵌着されている。揺動側面部位 1 0 K 側におけるピストンリング 5 からピストンリング 7 までの距離は、揺動側面部位 9 K 側におけるピストンリング 5 からピストンリング 7 までの距離よりも長い。

ピストンリング 5 及び 7 の夫々の両端突合せ部は、当該両端突合せ部を介してガスが漏出しないように密に当接又は嵌合されている。

環状ガス室 6 は、ピストン 3 の側面 8、シリンダ 1 3 の内面 1 4 並びにピストンリング 5 及び 7 によって規定されてなる。

オイルリング 1 6 の揺動側面部位 9 K 及び 1 0 K 間の略中間における部位 3 1 K は、往復動方向 Y で連結軸 2 1 に接触しない範囲でピストンリング 5 から離れて配置されている。オイルリング 1 6 の揺動側面部位 1 0 K 側における部位 3 2 K は、往復動方向 Y で部位 3 1 K よりもピストン

リング 5 から離れて配置されている。

凹所 15 K は、ピストン 3 が上死点の位置とクランク角度で略 15 度に相当する位置とに存在する場合に、環状ガス室 6 を燃焼室 2 に連通させるように、揺動側面部位 10 K 側における側面 8 に対面する内面 14 に形成されている。

本例の往復動エンジン 1 K の動作について説明すると、圧縮行程の終了後に開始される燃料及び空気の混合気の燃焼行程において、ピストン 3 が当該ピストン 3 の上死点近傍に位置している間に点火プラグ 26 による点火を行い、燃焼室 2 内の燃焼ガスを凹所 15 K を介して環状ガス室 6 に導入し、図 1 に示すように、ピストン 3 が当該ピストン 3 の上死点通過後であって上死点近傍に位置している間に最大に高まった燃焼ガスのガス圧をピストン 3 が受けることで下死点に向かって加速する。ここで、往動するピストン 3 から、往復動方向 Y に対して傾斜しているコンロッド 22 に往動力が与えられることによってピストン 3 にスラスト側に向かう側圧力 E1 が与えられるが、当該側圧力 E1 に抗して、環状ガス室 6 内のガス圧によりピストン 3 に反スラスト側に向かう抗側圧力 E2 を与えて、当該ピストン 3 をガスフロートさせる。

以上のように構成された往復動エンジン 1 K では、燃焼時には凹所 15 K を介して燃焼室 2 と環状ガス室 6 とが連通される位置にピストン 3 がもたらされているため、燃焼

行程で燃焼室 2 で燃焼して発生したガス圧は、凹所 1 5 K を介して環状ガス室 6 に速やかに導入される。この導入されたガス圧に基づき環状ガス室 6 の偏倚した側圧を受けてピストン 3 は、その往復動では内面 1 4、特に揺動側面部位 1 0 K 側の内面 1 4 に対して浮上（ガスフロート）する。ガス圧に基づいて浮上されたピストン 3 は、極めて低い揺動摩擦抵抗をもって往復動する。また、斯かる往復動において、ピストン 3 は連結軸 2 1 を中心として D 方向に揺動（首振り）されようとするが、当該揺動は、上述の環状ガス室 6 の偏倚した側圧によって阻止される。ピストン 3 は、揺動側面部位 9 K 及び 1 0 K 側における側面 8 がシリンダ 1 3 の内面 1 4 に当接することなく、極めて低い揺動摩擦抵抗をもって往復動し得ることとなり、往復動エンジン 1 K の燃費の改善等を図り得る。

本例の往復動エンジン 1 K によれば、揺動側面部位 9 K 及び 1 0 K 間の略中間よりも揺動側面部位 1 0 K の方でピストンリング 5 から離れているオイルリング 1 6 を具備しているために、オイルリング 1 6 を、連結軸 2 1 の上方に位置する当該オイルリング 1 6 の部位 3 1 K が連結軸 2 1 に干渉しない範囲でピストンリング 5 から離れるように且つスラスト側における当該オイルリング 1 6 の部位 3 2 K が部位 3 1 K よりもピストンリング 5 から離れるように、配置することができ、従って、ピストンリング 7 を、上記

受圧面積が揺動側面部位 9 K 側よりも揺動側面部位 10 K 側の方でより大きくなるように、オイルリング 16 に干渉させることなく往復動方向 Y に対して大きく傾斜させることができ、而して、所望の側圧を生じさせてピストン 3 をシリンダ 13 の内面 14 から浮上（ガスフロート）させて、ピストンリング 5 及び 7 とシリンダ 13 との摺動摩擦抵抗を大幅に低減させることができる。

尚、上述の各実施例では、往復動エンジンを 4 サイクルガソリンエンジン 1 及び 1 K として実施したものであるが、本発明はこれらに限定されず、例えばディーゼルエンジンとして実施されても上記同様の作用効果が得られる。

請求の範囲

1. 燃焼室を規定しているピストンのトップ面に隣接している第一のピストンリングと、第一のピストンリングとの間で環状ガス室を規定していると共にこの環状ガス室でのピストンの側面の受圧面積が反スラスト側よりもスラスト側で大きくなるように、第一のピストンリングに隣接している第二のピストンリングと、シリンダの内面の円周方向に関して並んでシリンダの内面に配されていると共にスラスト側で環状ガス室を燃焼室に連通させる複数のガス通路とを具備している往復動エンジン。
2. 複数のガス通路は、シリンダの内面であってピストンが上死点又は上死点からの降下始期に環状ガス室を燃焼室に連通させる位置に配されている凹所を夫々具備している請求の範囲 1 に記載の往復動エンジン。
3. 複数の凹所は、環状ガス室のみを燃焼室に夫々連通させるようになっている請求の範囲 2 に記載の往復動エンジン。
4. 複数のガス通路は、シリンダの内面であってピストンの上死点からの降下始期に環状ガス室を燃焼室に連通させる位置に配されている請求の範囲 2 又は 3 に記載の往復動エンジン。
5. 少なくとも一つの凹所は、シリンダの内面であって

ピストンが上死点に位置する際に環状ガス室を燃焼室に連通させる位置に配されている請求の範囲 2 から 4 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

6. 少なくとも一つの凹所は、往復動方向に関して他の凹所よりもシリンダヘッドから離れて配されている請求の範囲 2 から 5 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

7. ピストンの反スラスト側の部位から最も離反している少なくとも一つの凹所は、往復動方向に関して他の凹所よりもシリンダヘッドから離れて配されている請求の範囲 2 から 6 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

8. 少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面の中心部は、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向並びに往復動方向に直交する方向に関してピストンの中心部に対向して配されている請求の範囲 2 から 7 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

9. シリンダヘッドから離れて配されている凹所のシリンダの内面に接続している接続部であってシリンダヘッド側に位置する部位は、他の凹所のシリンダ内面に接続している接続部であってシリンダヘッド側に位置する部位に往復動方向で対向する部位よりもシリンダヘッド側に配されている請求の範囲 6 又は 7 に記載の往復動エンジン。

10. 複数の凹所の夫々に規定される空間の開口面の一部は、夫々互いに円周方向に伸びる線上に位置している請求

の範囲 2 から 9 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

11. ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向に関して互いに対向する一対の凹所を具備しており、シリンダヘッドから一方の凹所までの往復動方向における距離とシリンダヘッドから他方の凹所までの往復動方向における距離とは、互いに等しい請求の範囲 2 から 10 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

12. 複数の凹所は、部分凹球面状面を夫々具備している請求の範囲 2 から 11 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

13. 少なくとも一つの凹所のシリンダの内面に接続する接続部に対する接線と往復動方向に伸びる線との交差角は、鈍角である請求の範囲 2 から 12 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

14. 少なくとも一つの凹所のシリンダの内面に接続する接続部であって往復動方向で互いに対向する両部位に対する接線は、当該両部位よりもピストンから離反した位置で互いに交わる請求の範囲 2 から 13 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

15. 少なくとも一つの凹所のシリンダの内面に接続する接続部に対する接線と往復動方向に伸びる線とは、互いに直交する請求の範囲 2 から 12 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

16. 少なくとも一つの凹所は、円周方向で当該凹所に隣接する凹所と異なる深さを有している請求の範囲 2 から 15 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

17. 少なくとも一つの凹所は、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向並びに往復動方向に直交する方向に関して当該凹所に対して反スラスト側に位置する他の凹所よりも深い請求の範囲 2 から 16 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

18. 少なくとも一つの凹所は、円周方向で当該凹所に隣接する凹所と等しい深さを有している請求の範囲 2 から 17 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

19. ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向で互いに対向する一对の凹所を具備しており、一方の凹所に規定される空間の開口面の中心部及びピストンの中心部を結ぶ線並びに軸方向に伸びる線の交差角と他方の凹所に規定される空間の開口面の中心部及びピストンの中心部を結ぶ線並びに軸方向に伸びる線の交差角とは、互いに等しい請求の範囲 2 から 18 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

20. 一对の凹所は、夫々互いに同形状である請求の範囲 19 に記載の往復動エンジン。

21. シリンダの内面に接続する複数の凹所の夫々の接続部であって往復動方向で互いに対向する両部位の間隔は、

第一のピストンリングの厚みよりも大きい請求の範囲 2 から 20 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

22. シリンダの内面に接続する複数の凹所の夫々の接続部であって往復動方向で互いに対向する兩部位間の距離は、環状ガス室を規定する第一のピストンリングの規定面のスラスト側の部位から環状ガス室を規定する第二のピストンリングの規定面のスラスト側の部位までの往復動方向における距離よりも短い請求の範囲 2 から 21 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

23. 少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面は、他の凹所に規定される空間の開口面と異なる径を有している請求の範囲 2 から 22 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

24. 少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面は、ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向及び往復動方向に関して当該凹所に対して反スラスト側に位置する凹所に規定される空間の開口面よりも長い径を有している請求の範囲 2 から 23 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

25. ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンの軸方向で互いに対向する一对の凹所を具備しており、一对の凹所の夫々に規定される空間の開口面の径と円周方向で当該一对の凹所に隣接する他の凹所に規定される空間の開

口面の径とは、夫々互いに異なる請求の範囲 2 から 24 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

26. 少なくとも一つの凹所に規定される空間の開口面は、他の凹所に規定される空間の開口面と等しい径を有している請求の範囲 2 から 25 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

27. 燃焼室を規定する第一のピストンリングの規定面は、往復動方向に直交する面と平行となるように配されている請求の範囲 1 から 26 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

28. 少なくとも一つの凹所で規定される空間の開口面の径は、当該凹所の深さよりも大きい請求の範囲 2 から 27 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

29. 第二のピストンリングは、往復動方向に対して傾斜して配されている請求の範囲 1 から 28 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

30. 第二のピストンリングを間にして第一のピストンリングに対向してピストンに配されているオイルリングを具備しており、オイルリングのスラスト側の部位は、往復動方向に関してピストンとコンロッドとを連結するピストンピンに対向するオイルリングの部位よりも第一のピストンリングから離れている請求の範囲 1 から 29 のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

31. オイルリングのスラスト側の部位は、当該オイルリングの反スラスト側の部位よりも第一のピストンリングから離れている請求の範囲30に記載の往復動エンジン。
32. 第二のピストンリングを間にして第一のピストンリングに対向してピストンに配されているオイルリングを具備しており、オイルリングは、往復動方向に対して傾斜して配されている請求の範囲29に記載の往復動エンジン。
33. オイルリング及び第二のピストンリングは、夫々互いに等しい角度をもって往復動方向に対して傾斜して配されている請求の範囲32に記載の往復動エンジン。
34. ピストンとコンロッドとを連結するピストンピンは、反スラスト側に偏心している請求の範囲1から33のいずれか一つに記載の往復動エンジン。
35. 燃焼室を規定しているピストンのトップ面に隣接している第一のピストンリングと、第一のピストンリングとの間で環状ガス室を規定していると共にこの環状ガス室でのピストンの側面の受圧面積がピストンの一方の揺動側面部位よりもこの揺動側面部位に対向する他方の揺動側面部位の方で大きくなるように、第一のピストンリングに隣接している第二のピストンリングと、一方及び他方の揺動側面部位間の略中間よりも他方の揺動側面部位の方で第一のピストンリングから離れているオイルリングと、ピストン及びシリンダの内面のうちの少なくとも一方に形成されて

おり、環状ガス室を燃焼室に連通させるガス通路とを具備している往復動エンジン。

36. 第二のピストンリングは、ピストンの往復動方向に対して傾斜して配されている請求の範囲35に記載の往復動エンジン。

37. オイルリングは、ピストンの往復動方向に対して傾斜して配されている請求の範囲35又は36に記載の往復動エンジン。

38. 一方の揺動側面部位は、反スラスト側に位置しており、他方の揺動側面部位は、スラスト側に位置している請求の範囲35から37のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

39. ガス通路は、シリンダの内面であってピストンが上死点近傍に位置する際に環状ガス室を燃焼室に連通させる位置に配された凹所からなる請求の範囲35から38のいずれか一つに記載の往復動エンジン。

1 / 11

FIG. 1

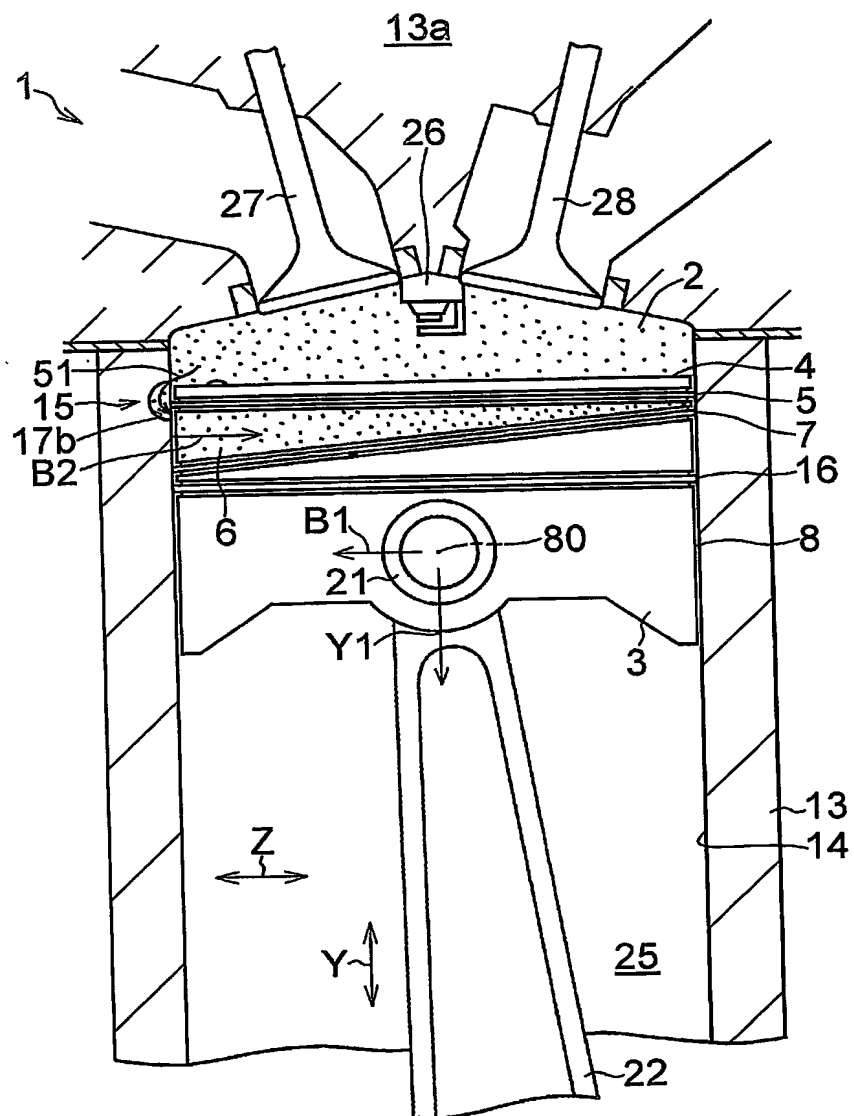
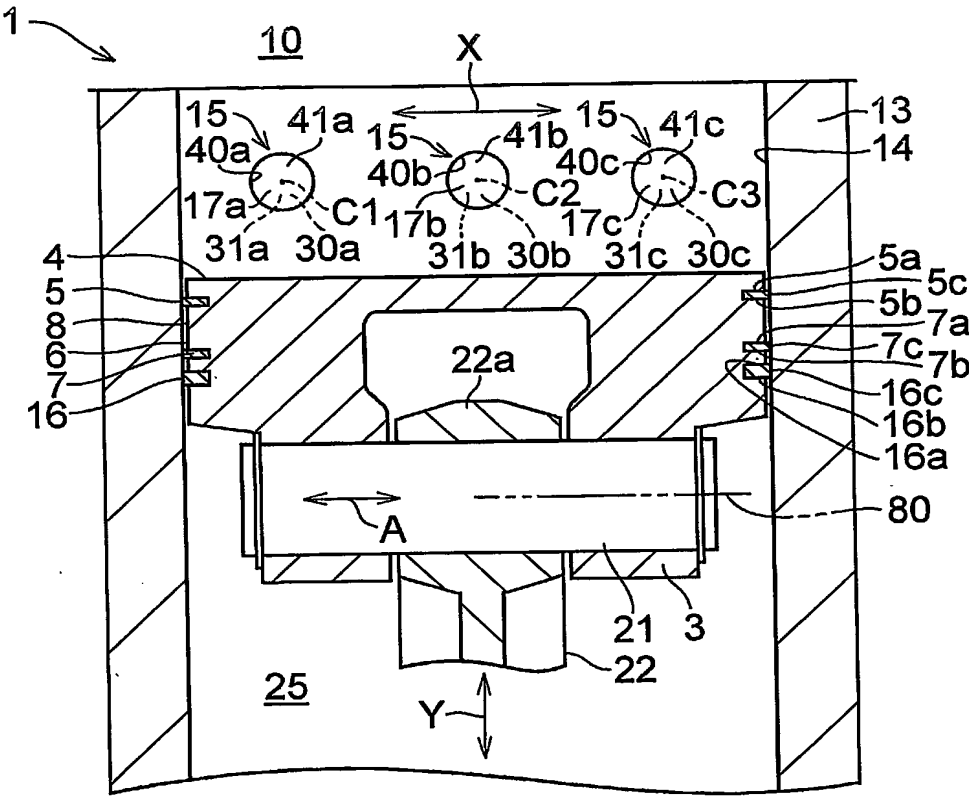


FIG. 2



3 / 11

FIG. 3

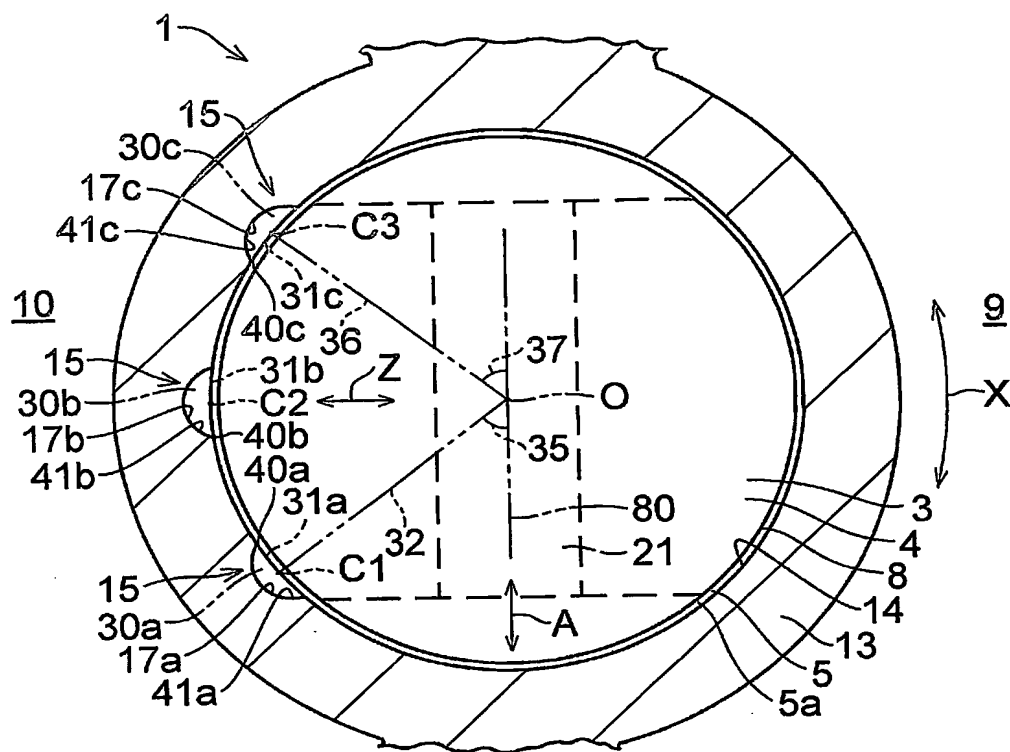
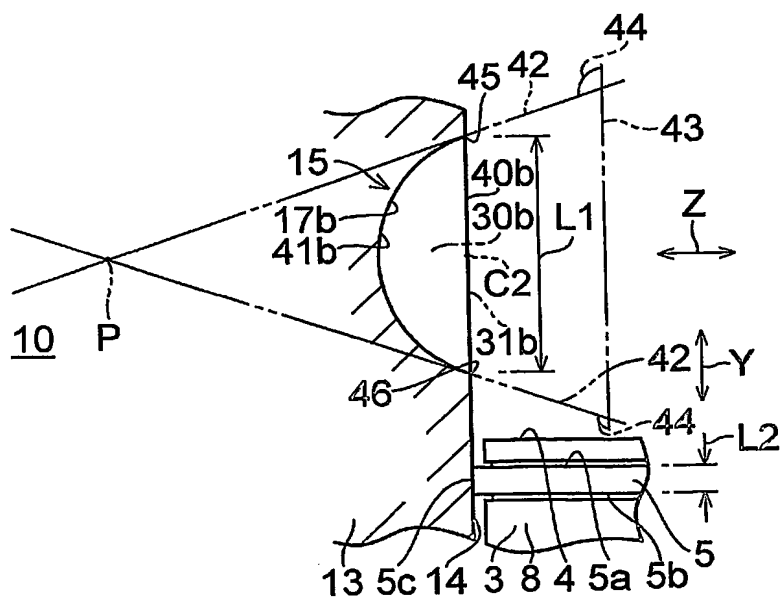
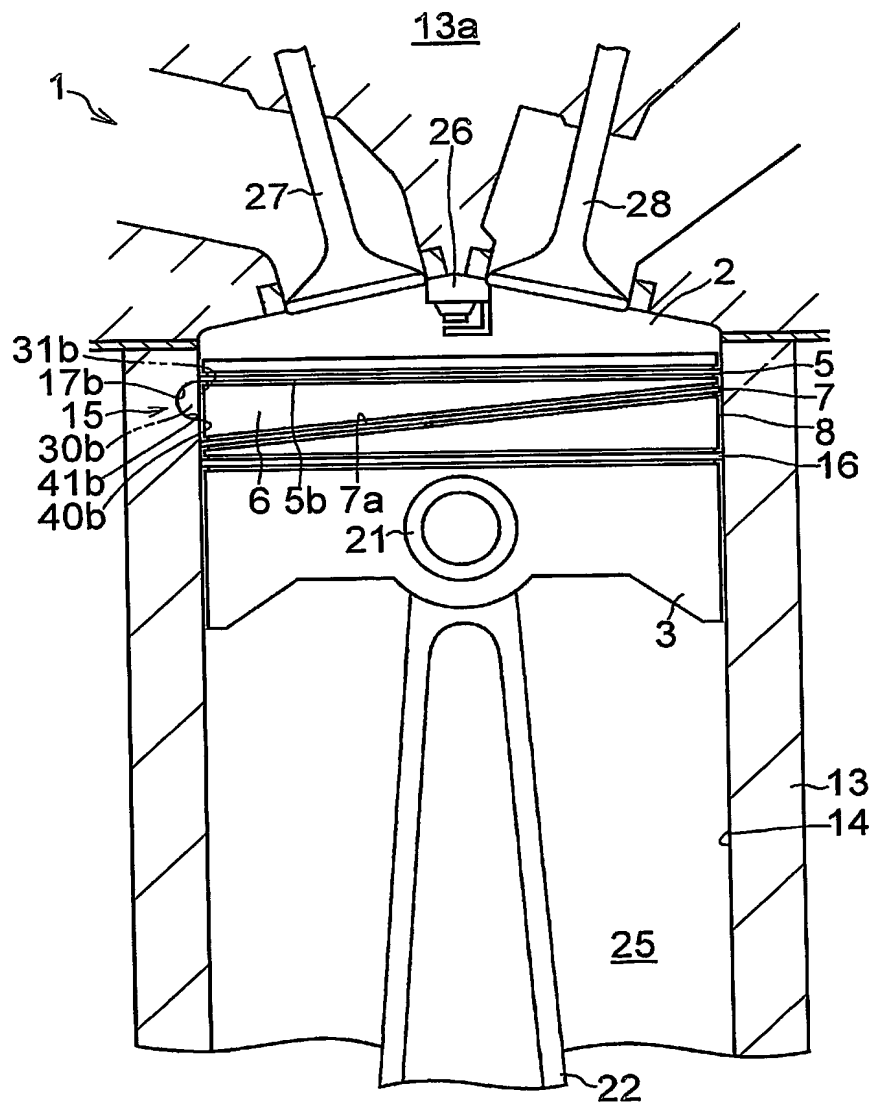


FIG. 4



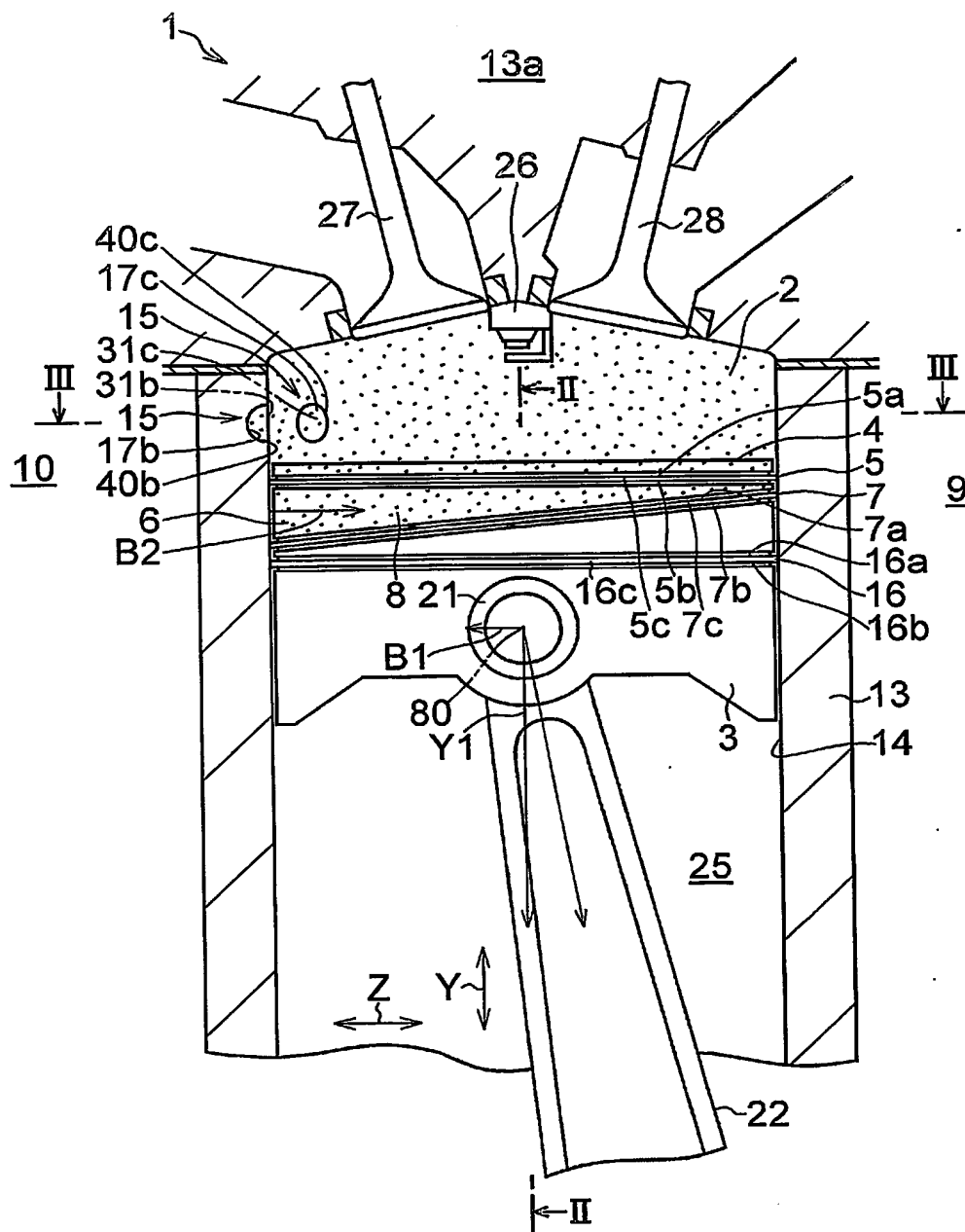
5 / 11

FIG. 6



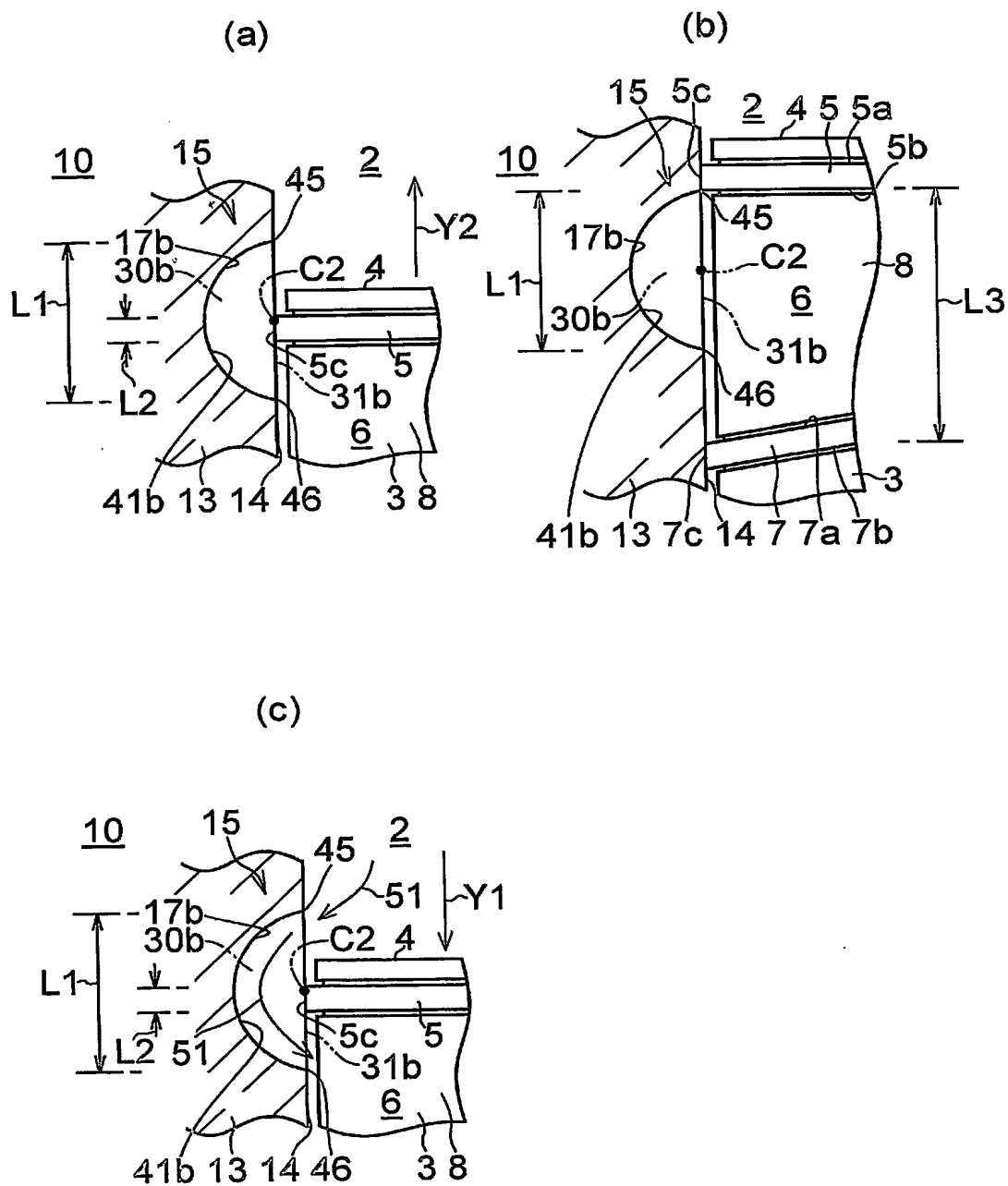
6 / 11

FIG. 7



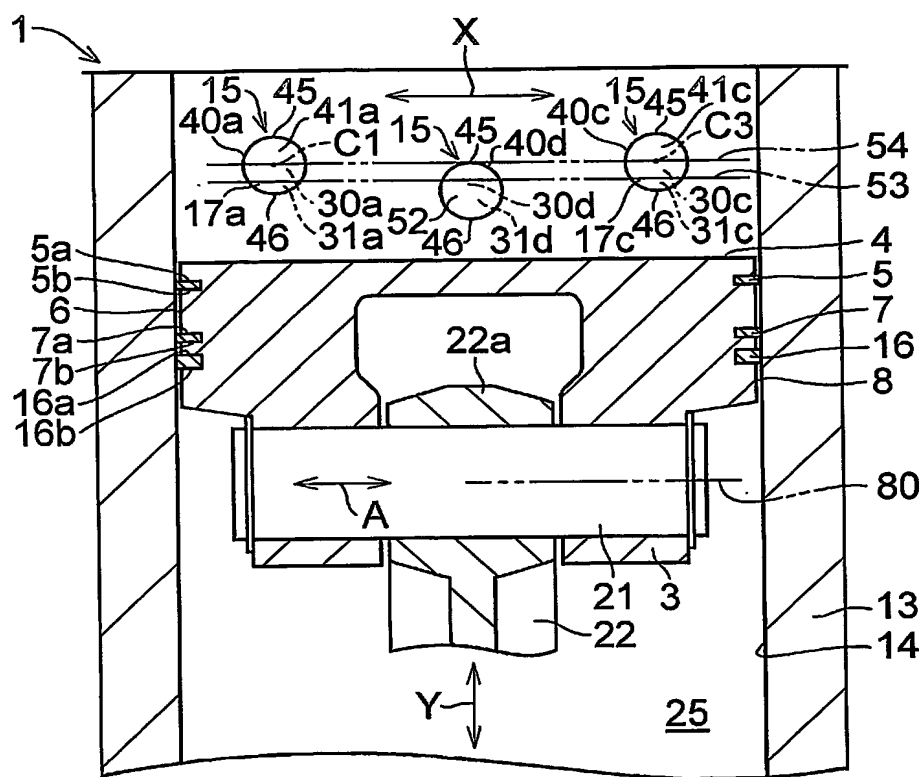
7 / 11

FIG. 8



8 / 11

FIG. 9



9 / 11

FIG. 10

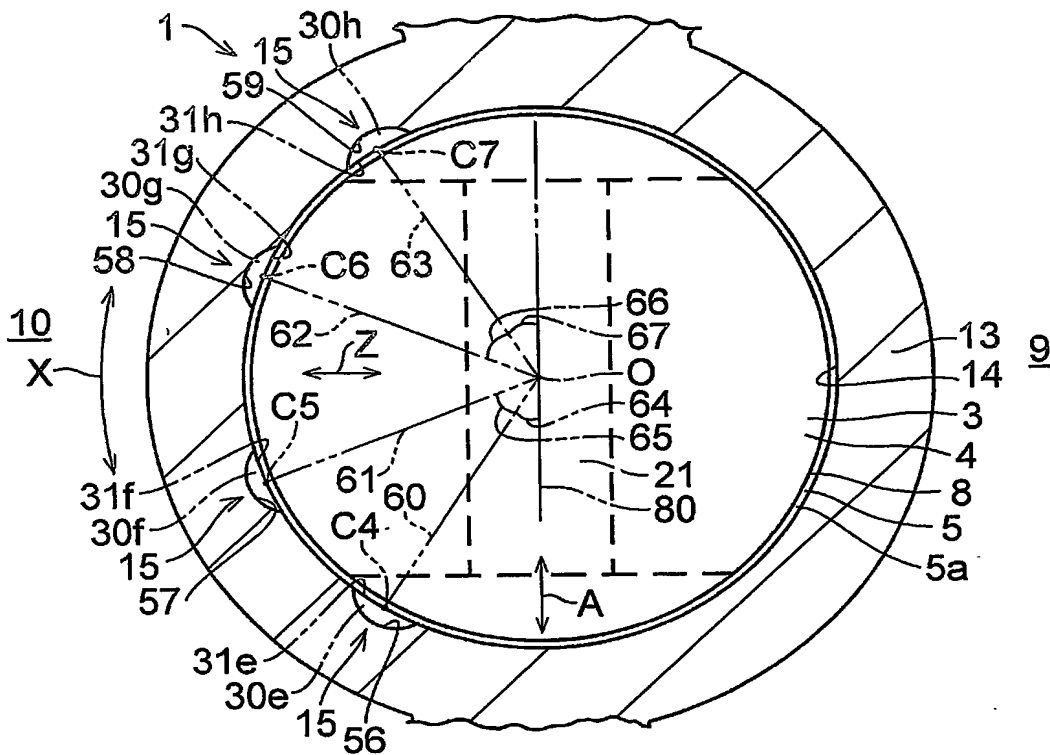
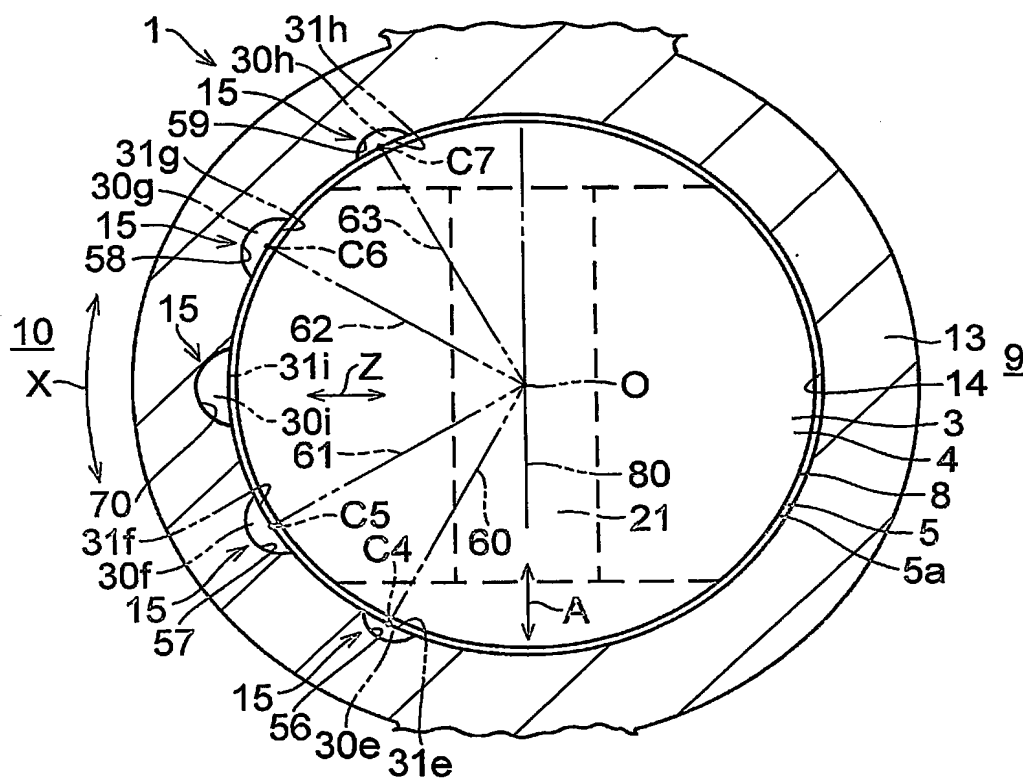


FIG. 11



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/002536

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ F02F1/00, F02F3/00, F02F5/00, F16J1/00, F16J9/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ F02F1/00-11/00, F16J1/00-1/24, F16J9/00-9/28

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2004

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2004 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 4-362258 A (Bando Kiko Co., Ltd.), 15 December, 1992 (15.12.92), Full text; Figs. 1, 2 (Family: none)	1-5, 10-15, 18-22, 26-29, 34
Y	JP 5-33865 A (Riken Corp.), 09 February, 1993 (09.02.93), Full text; Figs. 1 to 8 (Family: none)	1-5, 10-15, 18-22, 26-29, 34
Y	JP 10-132076 A (Unisia Jecs Corp.), 22 May, 1998. (22.05.98), Full text; Figs. 1 to 5 & US 5894824 A & DE 19708252 A	34

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
15 June, 2004 (15.06.04)Date of mailing of the international search report
29 June, 2004 (29.06.04)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/002536

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2000-509460 A (MAN B & W DIESEL A/S), 25 July, 2000 (25.07.00), Full text; Figs. 1 to 6 & WO 97042406 A1 & AU 2763297 A & TW 384356 B & GB 2326446 A & CN 1218540 A & DK 54796 A & HR 970228 A	1-39
A	JP 4-321757 A (Bando Kiko Co., Ltd.), 11 November, 1992 (11.11.92), Full text; Figs. 1, 2 (Family: none)	1-39
A	JP 4-347353 A (Bando Kiko Co., Ltd.), 02 December, 1992 (02.12.92), Full text; Figs. 1, 2 (Family: none)	1-39
A	JP 5-5459 A (Bando Kiko Co., Ltd.), 14 January, 1993 (14.01.93), Full text; Figs. 1, 2 (Family: none)	1-39
A	JP 4-159441 A (Riken Corp.), 02 June, 1992 (02.06.92), Full text; Figs. 1 to 5 (Family: none)	1-39
A	JP 62-26346 A (Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.), 04 February, 1987, (04.02.87), Full text; Figs. 1 to 6 (Family: none)	1-39

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl. 7 F02F1/00, F02F3/00, F02F5/00, F16J1/00, F16J9/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl. 7 F02F1/00-11/00, F16J1/00-1/24, F16J9/00-9/28

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年
 日本国公開実用新案公報 1971-2004年
 日本国登録実用新案公報 1994-2004年
 日本国実用新案登録公報 1996-2004年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 4-362258 A (坂東機工株式会社) 1992.12.15, 全文, 図1, 2 (ファミリーなし)	1-5, 10-15, 18-22, 26-29, 34
Y	JP 5-33865 A (株式会社リケン) 1993.02.09, 全文, 図1-8 (ファミリーなし)	1-5, 10-15, 18-22, 26-29, 34

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
 「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
 「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
 「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
 「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

15.06.2004

国際調査報告の発送日

29.6.2004

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
 郵便番号100-8915
 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

関 義彦

3G

3111

電話番号 03-3581-1101 内線 3355

C (続き). 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 10-132076 A (株式会社ユニシアジェックス) 1998. 05. 22, 全文, 図1-5 & US 5894824 A & DE 19708252 A	34
A	JP 2000-509460 A (マーン・ベー・オグ・ドバル ドヴェー・ディーゼール・アクティーゼルスカプ) 2000. 07. 25, 全文, 図1-6 & WO 97042406 A1 & AU 2763297 A & TW 384356 B & GB 2326446 A & CN 1218540 A & DK 54796 A & HR 970228 A	1-39
A	JP 4-321757 A (坂東機工株式会社) 1992. 11. 11, 全文, 図1, 2 (ファミリーなし)	1-39
A	JP 4-347353 A (坂東機工株式会社) 1992. 12. 02, 全文, 図1, 2 (ファミリーなし)	1-39
A	JP 5-5459 A (坂東機工株式会社) 1993. 01. 14, 全文, 図1, 2 (ファミリーなし)	1-39
A	JP 4-159441 A (株式会社リケン) 1992. 06. 02, 全文, 図1-5 (ファミリーなし)	1-39
A	JP 62-26346 A (三菱重工業株式会社) 1987. 02. 04, 全文, 図1-6 (ファミリーなし)	1-39